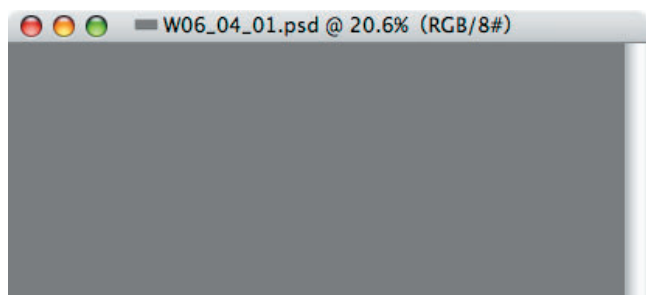
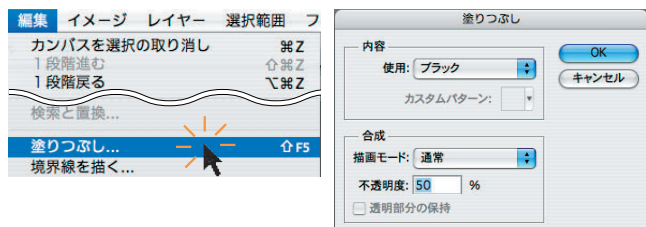


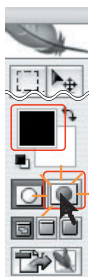
6-4 クイックマスクの濃淡と効果の関係

クイックマスクのグレーの濃淡は、選択範囲に対しての補正効果の効き具合に影響する。濃淡を変化させることで、より繊細な補正が可能となる。ここで注意したいのは、クイックマスクの「表示色（標準設定は赤50%）」の濃度（＝不透明度）を変更しても、画像補正効果に変化はないという点だ。クイックマスクの表示色はあくまで、被写体とマスクを区別して作業しやすいよう便宜的につけられた色にすぎない。クイックマスクそのものはグレースケールである。混乱しがちだが、下の実験を参考に、頭を整理していただきたい。

クイックマスクの濃淡と効果の関係性の実験



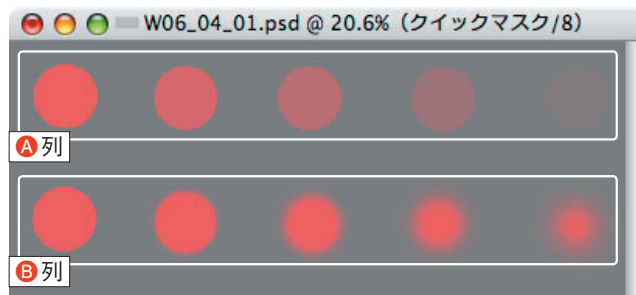
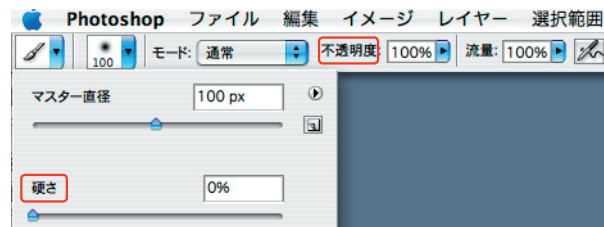
①メニューバーから [編集] → [塗りつぶし] をクリックし、ブラック50%で塗りつぶした画面を用意する。



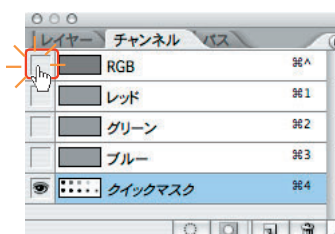
②ツールボックスから [クイックマスクモード] ボタンをクリックして、画像描画モードからクイックマスクモードに切り替える。描画色が黒になっているのを確認する。



③クイックマスクオプションとチャンネルパレットは上図のように設定しておく。



④不透明度や硬さの異なるブラシでクイックマスクを作成する。ここでの設定によって、補正効果の強弱が変化することになる。
A列：硬さ＝すべて100%固定、不透明度＝左から100%、75%、50%、25%、5%と変化
B列：不透明度＝すべて100%固定、硬さ＝左から100%、75%、50%、25%、0%と変化



⑤チャンネルパレットで、クイックマスクの確認をする。RGBの左のアイコンをクリックして□（非表示）にし、クイックマスクだけを表示する。

レイヤーの表示：[アイコン]
レイヤーの非表示：[アイコン]

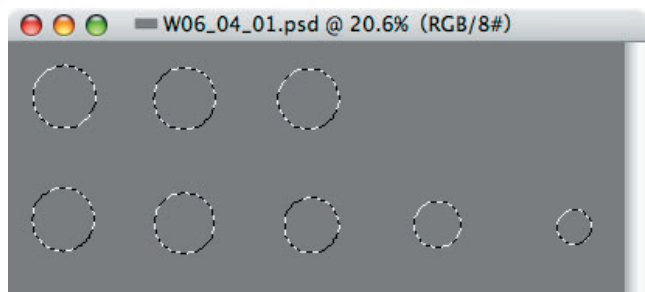


⑥クイックマスク本来の濃淡が確認できる（参照 Web 6-8）。

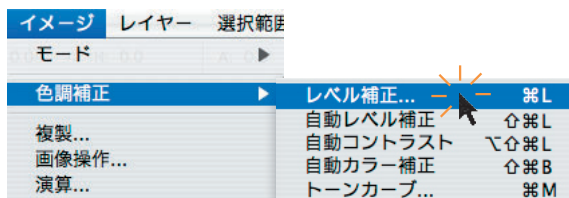
次ページへ続く →



- 7 「画像描画モード」 ボタンをクリックして画像描画モードに戻す。



- 8 クイックマスクが選択範囲に変化した（上段の右2つは不透明度が50%に満たないため、破線で表示はされないが、選択はされている）。



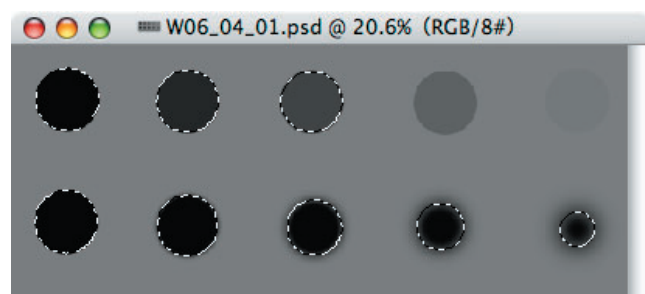
- 9 選択範囲に補正をかける。メニューバーから [イメージ] → [色調補正] → [レベル補正] をクリックする。



- 10 「レベル補正」 の設定画面が開いた。ブラック50%で塗りつぶしただけの画面なので、ヒストグラムは中間部に集中した状態である。



- 11 中間部のスライダを右に移動して選択範囲を暗くしてみる。



- 12 上段はブラシの不透明度に比例してブラックの濃度が変化した（上段の右2つにも反映されている）。下段はブラシの硬さ別に境界のぼかし具合が反映されているのがお分かりいただけるだろう。

◆ワンポイント

クイックマスクオプションでクイックマスクの不透明度を変更しても、画像補正効果の度合いには影響しない。あくまでも「見え方」を調整するだけの機能である。画像補正の効果に影響するのは、クイックマスクモードで使用するブラシや消しゴムの「濃度」だ。

